

集中し、その増加人口は全国の増加人口をうわまわり、大都市圏の人口急増地帯は外延化の一途をたどり、一方、都道府県人口の格差はますます広がり、過密にたいしていわゆる過疎地域が拡大しつつあることは、昨今の新聞や研究書の紙上の数字によって明示されているとうりである。

もっとも、昨年度あたりから、3大都市圏への人口集中の度合がやや鈍って、その他の地域において、いわゆるエリート都市が抬頭し、地方都市圏が形成されはじめている、という事実があらわれているが、実数の増加が停滞したわけではない。また、3大都市圏と称する場合には、一般に広義には、東京圏〈東京・神奈川・埼玉・千葉〉、中京圏〈愛知・岐阜・三重〉、近畿圏〈大阪・京都・奈良・滋賀・兵庫・和歌山〉という設定をするが、首都圏にふくまれるべき群馬・栃木・茨城をはじめ、静岡・岡山・広島などの各県がのぞかれており、反面に、中京・近畿の両圏に含まれている各県のなかには、地域的にかなりの人口流出現象を呈しているところもあり、取扱上、対象地域の設定や統計解析に十分な配慮を必要とする。ひとくちでいうならば、大都市圏人口集中の外延化が強まっているということができ、さらに資本の要請による経済圏の広域化にともなって、地方都市の中の特定の都市〈おもに県庁所在地とコンビ

ナート立地の都市〉が人口増加を強めていることであって、必ずしも人口の地域的均等配置や地方の独自の経済圏の確立が進行しているわけではない。

### 3 大都市圏への人口集中

3大都市圏の範囲を、厚生省や総理府などでは、それぞれ東京・大阪・名古屋の都心から50キロメートルの地域として考察する機会が多いが、この設定圏域による総理府統計局の公表結果によれば概略つぎのような現況である。

昭和40年のこの圏域内における人口は、東京50キロ圏1,886万人、大阪50キロ圏1,169万人、名古屋50キロ圏610万人で、合計3,664万人にたっし、全国人口の37%を占めており、とくに、東京圏の人口は、全人口の19%をこえて、東北6県の人口の約2倍で、中国地方と九州の人口をあわせた規模に相当する。これは、大ロンドン都市圏の人口が全人口の15%を占め、パリ首都圏の人口が全人口の16%を占めてはいるものの、すでに世界でもっとも大きな規模にたっている東京大都市圏の人口が、全人口にたいする比率を30年の15%から40年の19%に高めていることは、大阪およ

表3——3大都市圏〈50キロ圏〉の人口と人口密度

都 市 圏	全国人口を100とした比率			人 口 <千人>			面 積 と 密 度		
	昭和 40年	35年	30年	昭和 40年	35年	30年	面 積 <平方キ ロメー トル>	全国面積 を100し たとた比率	人口密度 <1平方 キロメー トルあた り人口>
東京50キロ圏	19.2	16.9	14.9	18,856	15,745	13,280	6,918	1.9	2,726
大阪50キロ圏	11.9	10.7	9.8	11,692	9,994	8,766	6,948	1.9	1,683
名古屋50キロ圏	6.2	5.8	5.5	6,096	5,397	4,868	7,260	2.0	840
3大都市圏計	37.3	33.3	30.1	36,644	31,137	26,914	21,126	5.7	1,735
全 国	100.0	100.0	100.0	98,275	93,419	89,276	369,777	100.0	266

1 東京都庁、大阪市役所、名古屋市役所から直線距離で50キロ圏内にある市町村、50キロの境界線上の市町村は、面積の2分の1以上が含まれている場合は圏内に含めた。

出典：総理府統計局

び名古屋の大都市圏の人口とともに、わが国の人口の地域分布を特色づけているといえる（表3参照）。また、都府県単位の大都市圏については表4を参照されたい。

東京・大阪・名古屋の各50キロ圏の人口を合計した3大都市圏の人口は、25年～30年に17%、30年～35年に16%、35年～40年に18%という高い率で増加しており、この期間の全国人口の増加率、7.3

%、4.6%、5.2%をそれぞれ大幅に上まわっている。これを増加の実数でみると、3大都市の増加人口は、25年～30年に393万人増、30年～35年に422万人増、35年～40年に551万人増といちじるしく増大しており、とくにこの増加数を全国の増加人口とくらべると、25年～30年には全国の増加人口の64.7%にあたる人口が3大都市圏で増加しており、30年～35年には102%、35年～40年に

表4—3大都市圏<都府県単位>の人口と人口密度

都市圏	全国人口を100とした比率			人 口 <千人>			面 積 と 密 度		
	昭和 40年	35年	30年	昭和 40年	35年	30年	面 積 <平方キ ロメー トル>	全国面積 を100と した比率	人口密度 <1平方 メートル あたり人 口>
東京圏<1都3県>1)	21.4	19.1	17.3	21,017	17,864	15,424	13,254	3.6	1,586
阪神圏<2府1県>2)	13.3	12.2	11.4	13,070	11,405	10,174	14,795	4.0	883
中京圏<3県> 3)	8.2	7.8	7.7	8,013	7,330	6,838	21,431	5.8	374
3大都市圏計	42.8	39.2	36.3	42,100	36,599	32,437	49,479	13.4	851
全 国	100.0	100.0	100.0	98,275	93,419	89,276	369,777	100.0	266

1) 東京、神奈川、埼玉、千葉。 2) 大阪、兵庫、京都。 3) 愛知、岐阜、三重。

出典：第3表に同じ

表5—3大都市圏<50キロ圏>の人口増加

都市圏	人口増加率 <%>			全国の人口増加数を 100とした比率			増 加 人 口 <千人>		
	昭和 35～40年	30～35年	25～30年	昭和 35～40年	30～35年	25～30年	昭和 35～40年	30～35年	25～30年
東京50キロ圏	19.8	18.6	21.7	64.1	59.5	38.9	3,111	2,465	2,366
大阪50キロ圏	17.0	14.0	15.5	35.0	29.6	19.4	1,698	1,228	1,177
名古屋50キロ圏	12.9	10.9	8.7	14.4	12.8	6.4	698	529	390
3大都市圏計	17.7	15.7	17.1	113.4	101.9	64.7	5,508	4,223	3,933
全 国	5.2	4.6	7.3	100.0	100.0	100.0	4,856	4,143	6,076

出典：第3表に同じ

表6—3大都市圏<都府県単位>の人口増加

都市圏	人口増加率 <%>			全国の人口増加数を 100とした比率			増 加 人 口 <千人>		
	昭和 35～40年	30～35年	25～30年	昭和 35～40年	30～35年	25～30年	昭和 35～40年	30～35年	25～30年
東京圏<1都3県>	17.6	15.8	18.2	64.9	58.9	39.1	3,153	2,440	2,374
阪神圏<2府1県>	14.6	12.1	13.1	34.3	29.7	19.3	1,665	1,230	1,175
中京圏<3県>	9.3	7.2	6.9	14.1	11.9	7.3	684	491	442
3大都市圏計	15.0	12.8	14.0	113.3	100.4	65.7	5,502	4,161	3,990
全 国	5.2	4.6	7.3	100.0	100.0	100.0	4,856	4,143	6,076

出典：第3表に同じ

は113%である<表5・6参照>。

つぎに、3大都市圏の都心から距離別人口をみてみよう。各圏とも都心から10キロメートルごとに同心円状の圏を設定する。3大都市圏の昭和40年における人口は、名古屋50キロ圏の人口610万人を1として比較すると、大阪50キロ圏の人口がほぼ2倍、東京50キロ圏の人口がほぼ3倍にあたり、その規模に大きな差異がある。そして、東京圏では10~20キロ地帯にもっとも多くの人口が分布しており、大阪・名古屋両圏では、0~10キロ地帯にもっとも多くの人口が分布している。東京の0~10キロ地帯には、23区のうち中心部の15区が含まれており、その人口は458万人で、圏内総人口の24%であるのにたいし、周辺8区および川崎・三鷹・川口市などをふくむ10~20キロ地帯の人口は662万人で圏内人口の35%にたっている。これにくらべ、大阪圏では、大阪市および周辺の5市をふくむ0~10キロ地帯の人口が446万人で圏内人口の38%を占め、名古屋では、名古屋市の緑区をのぞく13区および周辺10町村をふくむ名古屋の0~10キロ地帯の人口が198万人で圏内人口の33%を占めている。大阪・名古屋両圏の10~20キロ地帯の人口はそれぞれ233万人、113万人で圏内人口にたいする割合は20%、19%であり、東京の10~20キロ地帯の人口662万人、35%を大幅に下まわっている。

3大都市圏における10キロ地帯別の各圏30年~35年~40年の人口増加は、大阪・名古屋の両圏では0~10キロ地帯よりも10~20キロ地帯が、東京圏では10~20キロ地帯よりも、20~30キロ地帯が大きな増加率をしめし、とくに東京の場合には、増加率の極大地帯が40キロまで移行しつつあり、逆に0~10キロ地帯は、35~40年期にはすでにわずかながら減少しはじめている。これはのちにのべる大都市地域内の人口増減のドーナツ化の現象であることはいうまでもない。

大都市圏では、近年人口の自然増加率がふたたび上昇しはじめており、これが人口増加速度を高める要因の一つになっている。35~40年に3大都市圏以外の地域の自然増加率が4.5%であるのにたいして、3大都市圏のそれは6.4%にたっている。逆に社会増加による人口増加率の推移をみると、東京圏では37年をピークに、阪神圏では36年

表7——7大都市の区の人口概要

七大都市	人口増加率<%>		
	昭和35~40年	30~35年	25~30年
東京都	7.0	19.2	29.4
大阪府	4.8	18.2	26.4
名古屋市	14.0	19.5	22.7
横浜市	30.0	20.3	20.2
京都市	6.2	5.4	8.9
神戸市	9.2	12.9	20.2
北九州市	5.7	13.6	17.8
計	9.1	18.0	24.4

表8——7大都市の人口増加率 <昭和40年度境域による>

		東京都区部 <23区>	大阪市 <22区>	名古屋市 <14区>	横浜市 <10区>	京都市 <9区>	神戸市 <8区>	北九州市 <5区>	
昭和35~40年 人口増減	増加区	3	2	4	6	2	1	0	
	減少区	20%以上	12	7	8	4	4	6	3
		0~19%	8	13	2	0	3	1	2
人口密度 <昭和40年>	2万以上	10	7	0	0	3	1	0	
	1万以上2万未満	9	13	4	2	0	0	0	
	1万未満	4	2	10	8	6	7	5	
人口 <昭和40年>	20万以上	21	6	0	5	0	2	2	
	10万以上20万未満	1	6	10	3	9	4	3	
	10万未満	1	10	4	2	0	2	0	